

今回は 卒業生レポート「探究活動で学んだこと」です。

◇ 探究活動の学びがその後どう生かされているのか、語ってくださいました！

関高校がSGH指定を受け、探究活動が本格化したのは2014年のことです。その時の高校1年は、現在、社会人や大学院生として活躍中です。2014年以降、関高で課題解決型研究やフィールドワーク、全国コンクールや学会発表など、様々な活動に取り組んだ卒業生に、「探究活動の学びがその後どう生かされているのか」について寄稿していただきました。

自発的な学びのすばらしさ

SGHの取り組みで大変お世話になりました。SGH活動がなければ、関西学院大学のグローバル入試に合格できなかったといっても過言ではありません。SGH講演会で税所篤快さんの講演をお聞きして感動し、国際協力への関心をテーマに受験の際の小論文に書き、合格となりました。大学の4年間、副専攻として「国連・外交」を学びました。現在は、自動車メーカーに勤務し、トラックの製造を通じ、途上国に貢献しようと頑張っています。

SGH活動が始まるまでは、正直、高校は大学受験に向けて「詰め込み型」の勉強をするところだと思っていましたが、大勢を前にして発表することで、自発的な学びにつながったと思います。関西学院大学にもSGH出身校の学生が大勢いますが、プレゼンテーションのスキルをしっかりと身に付けている人が多いです。在校生の皆さんも、関高での活動に積極的に参加して、様々な力を身に付けるといいと思います。大学生活できっと役立ちます。



(関西学院大学卒 自動車メーカー勤務)

大学での研究を先取りする活動

探究活動のおかげで、学問の世界がどういうものか、大学入学前に前もって知ることができました。大学の先生方の考え方や話しぶり、学会の雰囲気、そこでどんな議論が交わされるのか。こうした経験が、大学での研究生活に大いに役立っています。

あと、高校生のうちに、グループで連携しながら研究するトレーニングを積めたことも、とてもよい経験になりました。自分の役割を果たしながら全体の進捗状況を考えて行動することであったり、研究仲間や指導教官とのコミュニケーションのとり方であったり、高校で身に付けたスキルが大学院生の今でもけっこう役立っています。

私は、霊長類研究チームの初代リーダーを務めました。今の私の研究テーマ（オーロラ）とまったく関係ないのですが、ゴリラの行動観察という普通の高校生がやらないことを高校の時やっていたというエピソードを初対面の人に話すと、かなりの確率で記憶してもらえます。高校時代に熱中した研究テーマがあると、いろんな人が興味をもってくれるし、話も弾むので、人間関係を豊かにする上でも探究活動はよい結果をもたらしてくれるといえます。

(名古屋大学大学院在籍)

挑戦する心

私が探究活動で学んだものは「挑戦する心」です。高校時代、様々なことに挑戦しました。今の自分にとって、そのすべてがプラスになっています。私にとって、現在の大学での学び

と高校時代の探究活動が直接結びついているわけではありませんが、探究活動に貪欲にとりくんだことによって「挑戦する癖」が身につきました。そのおかげで今も講演会に出かけたり、手話を始めてみたり、様々な挑戦を続けています。

(岐阜聖徳学園大学在籍)

地域とつながる大切さと面白さ

私自身、探究活動を通して、地域の方々とはつながることの大切さや面白さを肌で感じ、学ぶことができました。高校時代にその事を学んだからこそ、大学でも地域インターンシッププログラムに参加し、地域の方々と一緒に地元名産の果物を使ったカップアイスを作り、大学生協で販売をしました。この事は 私にとってとても嬉しいことで、高校の頃の探究活動とまっすぐつながっているのではないかと思います。

(和歌山大学在籍)

主体的に取り組む探究活動のすばらしさ

僕の場合、英国研修の経験は、国際系学部に行きたいと思えた進路選択にもつながりましたし、直接的な関連がなかったとしても、高校時代にチームで研究しスライドを作り上げて発表するというのは、大学に入ってからでも大きなアドバンテージとなる経験だと思います。

高校生は、生きている世界がまだまだせまく限られているので、探究活動を通じて講演に来てくれる講師の方から影響を受ける生徒も少なくないはずで、そういった、自分では求めたくても求められないような環境を、関高が提供するという事は、関高生にとって非常に大きな利点だと思います。

実際、僕のまわりで「プレゼン上手だな」と思う人は、SGH・SSH出身だったりすることが多いです。もちろん、すべての生徒が体的に取り組むというのは、なかなか難しいかもしれませんが、今後は高校生にもプレゼン力、リサーチ力、主体性などというような能力が求められる時代に必ずなります(もうなっているかもしれません)。それに伴って大学の入試形態も変化していくのであれば、今はその礎を作る時期なのかもしれませんし、関高は最前線にいるのだと思います。

僕は探究活動に主体的に取り組めて良かったと思っていますし、その成果は今の僕に確実に活きていると思います。



(千葉大学卒 コンサルタント会社勤務)

確実に役立つ関高での学び

僕が関高で取り組んだ活動ですが、まずひとつは、新しく出会う人とコミュニケーションをとるのに役立っています。一橋大学の学生や、司法試験予備校にも通う仲間、学生会館の寮生といった人の中で、僕が今後も長年にわたって仲良くしていきたいなと思える人たちの多くは、勉強以外に何か熱中してきた人たちばかりです。そんな人たちとコミュニケーションを取っていると、勉強以外に打ち込んだ活動があることの有り難みを感じます。もしかしたら彼ら彼女らも同じようなことを僕に感じてくれているのかもしれませんが。

また、法律の勉強をしている中でも、関高での学びが役立っていることを実感しています。例えば憲法は、司法試験などの論文問題を解いていてもそのようなのですが、法学的な知識があるだけでは解答を導き出すことはできません。これまでの人生の経験値を問われるような学問だと考えています。これまで培ってきた想像力や、物事を理解し説明する力があることのアドバンテージを折に触れて感じています。

探究活動にとりくむことで、勉強にはばかり注力しては身につかない力を身につけることができたかなと思っています。

(一橋大学在籍)

高校の経験が生きる大学生生活

関高生の活躍は、Facebookを見て常々確認しております。大学生顔負けの活動に、こちら身が引き締まります。

高校生の頃の活動は、今につながっていると思いますよ。確かに、今取り組んでいる活動自体は、高校生の時に頭をよぎりもしませんでした。その根底には高校生の時の経験があります。例えば、大学に入って、新しい活動に挑戦できたことは、中高生の時代から、様々な活動に挑戦してきたからだと思えます。また、大学でもリーダーシップを発揮する機会がありますが、間違いなく高校生の時の経験が生きていると思います。

学問の分野や将来の職業の選択に関しては、高校時の経験と必ずしもつながっているとは言えません。(高校生の時にやりたかったことと大学に入ってやりたいことが異なるなど)。ただ、目標が変わっても、それらに対する姿勢や態度というのは、高校生の時とそんなに変わっていません。様々な活動への主体性・積極性や、めぐってきたチャンスを十分に生かそうとする態度は高校生の時の延長線上にあると思います。

(九州大学在籍)



たくさんの成長、たくさんの刺激

高校の探究活動と大学での学びは、当然のようにつながっています。

高校の探究活動で、自分で課題を見つけて研究する作業がとても新鮮でしたし、なにを研究しても許されるのは良かったです。研究活動(LGBTQ)そしてみんなの前で発表した経験は自分の自信にもなっています。

大学でもジェンダーマイノリティに少しでも関わる講義はすべてとりました。高校時代のデータ分析がもっとうまくできていれば・・・と思っていたので、社会調査士の資格もとりました。もちろん卒論でもジェンダーに関することを書くつもりです(ジェンダーから見た中国文学。私にしかできないと思います笑)。

あとは、視野が広がったことによって、世界や日本社会の様々な問題を知って、考えるようになりました。対岸の火事だと見逃さないと言いますか、色々なものにアンテナが立つようになったと思います。調べたり、知ったりすることがとても重要なだと気づきました。知っていれば、言葉のセレクトを変えられたりとか、今の私にすごくプラスになっている出来事です。改めて考えてみたら、探究活動のおかげでたくさんの成長とたくさんの刺激をもらっていました。長々と書いてしまいました！少しでもお役に立てますように。

(群馬県立女子大学在籍)



自分の頭で考え、行動する

探究活動に関連するたくさんの取り組みの中で自分に最も影響を与えたのは、やはり霊長

類研究だと考えています。だから霊長類研究について深く書きます。

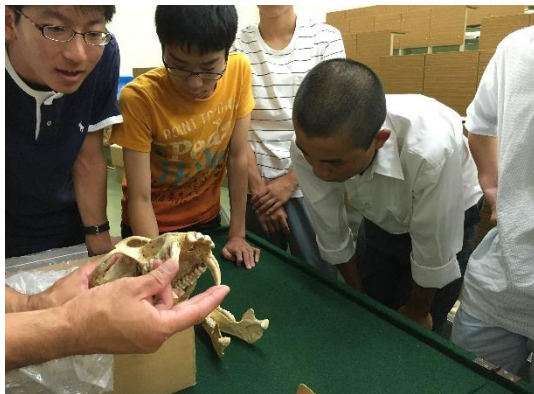
まず考えつく霊長類研究による変化は、自分の頭で考えることを大切にするようになったことです。霊長類研究を通して、誰かが言ったことに対しすぐに納得するのではなく、「ほんとにそうなのか」「なぜそう言えるのだろうか」と必ず自分でも考えるようになりました。この癖は今ボート部での練習に生きています。コーチが提示した練習メニューを淡々とこなすのではなく、その練習メニューを選んだコーチの意図をまず考えることで、「今日は〇〇を鍛えよう」という目的意識を持ってどの練習にも取り組めるようになりました。このことは昨シーズン、部の代表として大会に出場できた1つの要因だと考えています。

霊長類研究では、データを集めてそれを分析するということをしていました。これは私が統計学やデータ分析に興味を持つ原点となった経験です。今興味があるのはマーケティングで、使うデータは大きく違いますが、パソコンでデータを分析することの耐性は霊長類研究で身につけられたと考えています。

また、私は発表準備の際ポスター作成を担当していました。パワーポイントを駆使し、見やすく心に残りやすいポスターを追求したことで、ポスターやビラ、プレゼンなど「人の心を動かすもの」をパソコンで作成することが好きになりました。デザインに関する本を何冊も読み独学し、大学では昨年度と今年度のボート部新歓ビラを作成しました。作成中時々こだわりすぎて時間があつという間に過ぎてしまうことは、直さないとなあと思っています。

このように、霊長類研究に携わったことで得られた変化、経験、気づきは今の自分に大きな影響を与えています。私が霊長類研究を始めたきっかけはちょっとした知的好奇心でした。「自分の興味関心を信じて挑戦したことが、今後の大きな糧となっている」という経験は、大学生活において新しいことを始める際に勇気を与えてくれています。大学でボートを始めたこと、すべて英語の授業に飛び込んだこと、データ分析のコンペに参加したこと、さまざまな就活のセミナーに出席していることなど、一歩踏み出す勇気があつたおかげでたくさんのことを経験できました。

今後の進路はまだ決まっていますが、これからも自分の興味関心を大切にして日々過ごしていきたいと思います！



ここからは余談です。上で述べたこと以外に「霊長類研究していて良かったなあ」と思ったことがあります。それは自己紹介で困らない、ということです。今は大学生活で経験したことを交えて自己紹介をすることが多いですが、高校生の時は「ゴリラの研究をしていました」というワードに何度も助けられました。98%の人が興味を持ってくださるので、高校から1人で進学し周りに誰も知り合いがない私にとっては最も心強い武器でした。

(東北大学在籍)

課題発見・解決力。プレゼンテーションを通じた表現力。仲間や外部の人たちと協働するコミュニケーション力。

探究活動で身につく力は、大学進学後、就職後に大いに役立ちます。